



もっと知りたい！！

ベトナム人のこと

Part 1



ベトナム人が外国語に熱心な理由

ベトナムでは、子どもたちが幼い頃から積極的に外国語を学ぶ姿がよく見られます。その背景には、長い歴史の中で戦争や植民地支配を経験し、さまざまな国との関わりを経て発展してきた過去があります。そうした経験が、異文化や外国語を受け入れる柔軟な国民性を育ててきたのです。

多くのベトナム人の親たちは、「外国語を学ぶことが将来の可能性を広げてくれる」と信じており、教育への意識も非常に高い傾向にあります。公立の小学校でも英語教育が導入されるなど、早期外国語教育は制度としても整備が進められています。

中学・高校に進学すると、英語に加えて日本語やフランス語、中国語などの第二外国語を選択できるようになり、学ぶ言語の幅がさらに広がります。なかでも日本語の人気は年々高まっており、2018年には日本語学習者の数が約17万5,000人に達し、英語に次ぐ規模となりました。

日本語教育は語学学校だけでなく、小中高の一部の学校でも正式科目として導入されており、それだけ日本とのつながりが深いことがうかがえます。技能実習制度や留学、観光、ビジネスなど、日本とベトナムの交流が活発になっていることも、その背景にあります。

さらに、日本語だけでなく専門的な知識や技術を身につけた人材は、ベトナム国内でも高収入が期待できることから、外国語学習はキャリアアップや安定した就職につながる“未来の切符”として、多くの若者にとって大きな魅力となっています。

言語を学ぶことは、単にことばを覚えるということだけではなく、異なる文化や価値観を理解し、世界とつながる力を育てることでもあります。ベトナムの若者たちは、そんな力を早くから身につけ、グローバル社会で活躍する準備を着実に進めているのです。

日本語を生かせる職種

1



翻訳者・通訳者・編集者

2



秘書官・外交補佐官

3



日本語教師・研究者

4



日本語活用分野の人材

5



日本で就職する

日本における外国人労働者数を国籍別にみると、ベトナムが最も多く51万8,364人で、全体の4分の1を占めています。ベトナムは2020年以来、首位が続いており技能実習生が約21万人と圧倒的に多いのが特徴です。

ベトナムのお金事情

アメリカはドル、イギリスはポンド、日本は円。では、ベトナムの通貨単位をご存じですか？ベトナムでは「ベトナムドン（ĐỒNG）」という通貨が使われており、国際的には VND と表記されます。

紙幣は12種類ありますが、1,000ドン未満はほとんど使われておらず、お釣りの代わりにキャンディーが渡されることもあります。硬貨も法律上は有効ですが、実際に目にすることはほとんどありません。



ベトナム硬貨とホーチミン氏が描かれている紙幣

日本の紙幣は肖像画がそれぞれ異なりますが、ベトナムではすべての紙幣にホー・チ・ミン氏が描かれています。ホーチミンと聞くと都市名を連想する方も多いですが、実はベトナムの独立を導いた革命家・政治家として国民から深く尊敬されています。

ドンは桁数がとても多いため、初めて見ると戸惑うかもしれませんが、「ゼロを2つ取って、2で割る」とざっくり日本円が計算できます。例えば100,000ドンなら、約500円ほど。

現在のレートではその金額の1.2倍程度が実際の日本円に近い感覚です。

ベトナムの平均年収はおよそ792万ドン（約40万円）と言われています。

一方、日本の平均年収は約445万円ですので、金額だけを見ると10倍以上の差があります。ですが、ベトナムでは物価もかなり安く、生活費は日本の約3分の1程度。

たとえば・・・



- ローカルの食堂で1食：30,000～50,000ドン（150～250円）
- 家賃(地方)：月2～3万円台も可能
- タクシー初乗り：10,000ドン(約50円)前後

このように、収入が少なくても生活コストが低いため、十分に暮らしていけるのがベトナムの特徴です。

ベトナム人材を受け入れる際には、こうした通貨感覚や物価事情を知っておくことで、給与や生活支援についてより現実的な視点を持つことができます。

ホー・チ・ミンってどんな人？

ホー・チ・ミンは、ベトナム独立運動を率いた国民的英雄であり、「ベトナム建国の父」とも呼ばれる人物です。20世紀初頭にフランス植民地支配に対抗する運動に身を投じ、のちにベトナム民主共和国（北ベトナム）の初代国家主席となりました。シンプルで質素な生活を貫きながらも、強いリーダーシップと国民への思いやりで人々に深く敬愛されました。



ベトナムのストリートフード文化

小さな椅子に腰かけ、友人や家族と語らいながら食べる姿は、まさに日常の中の温もりそのものです。美味しいお店を探すなら、地元の人でにぎわっている屋台をチェックしてみましょう。現金払いが主流なので、小銭の準備もお忘れなく！

ベンタイン市場（ホーチミン）やドンスアン市場（ハノイ）などに行けば、さまざまな屋台グルメを一度に楽しめるのも嬉しいポイントです。

ベトナムのストリートフードは、味覚を楽しませてくれるだけでなく、その国の文化や価値観、人との距離感までも感じさせてくれる特別な体験です。「屋台」と聞くと、日本では夏祭りの出店や、冬のラーメン・おでんを思い浮かべる方も多いかもしれません。

でも、ベトナムではそんな屋台グルメが“日常の一部”として、年中いつでも楽しめるのが魅力です。朝は温かいフォーやバインミーで一日をスタート。昼はサクサクのバインセオや、混ぜライスパー「バインチャントロン」で小腹を満たし、夜は冷たいチェーで夏のデザートを楽しむ——。

どの料理もその場で手際よく調理され、素材の新鮮さと味のバランスが抜群です。

そして何より、ベトナムのストリートフードが魅力的なのは、そこに“人と人とのつながり”があること。

にぎやかさと温かさが詰まったその空間に、あなたもぜひ一度、足を運んでみてはいかがでしょうか？



おすすめのストリートフード

フォー(PHỞ)

フォーは、日本でもよく知られているベトナム料理の一つです。ハノイの寒い朝に道端の屋台で食べるフォーほど、本物の味を体験できる機会はありません。透明で香り豊かなスープ、柔らかい米粉の麺、新鮮なハーブが絶妙に組み合わせられ、忘れられない味わいを提供します。



チェー(CHÈ)

ベトナムの熱帯気候にぴったりのチェーは、非常に人気のあるスイーツです。緑豆チェー、蓮の実チェー、三色チェーなど、バリエーション豊富で、どれも体をリフレッシュさせてくれます。日本でいうところの“ぜんざい”に近いような感じのデザートです。



バインセオ(BÁNH XÈO)

バインセオは、日本のお好み焼きを思わせる料理ですが、新鮮で独特の味わいを楽しめます。ライスパーパーで作られたサクサクの生地、エビ、豚肉、もやしが含まれています。新鮮な野菜や甘酸っぱい魚醤（ヌクナム）を添えて味わうと、格別の体験となります。



バインミー(BÁNH MÌ)

バインミーはフランスとベトナムの食文化が融合した一品です。サクサクのフランスパンに、パテ、焼き豚、漬け野菜、香り高いハーブが詰まっています。この料理は、便利で栄養価が高く、朝食や軽食に最適です。

